

神奈川県議会議員

松長やすゆき

県政報告

第6号



9月議会の私の質疑について報告します

江の島の海の磯焼けⅡ砂漠化が深刻化しています

漁場復活のための取り組みを

今年度、私は県の環境農政常任委員会に所属となりましたので、特に江の島の磯焼け対策や海岸のゴミ削減など、藤沢市が抱えている喫緊の問題に対して質疑しました。

近年は、地球規模での異常気象、環境破壊、自然災害に関する問題が、年々大きく取り沙汰されています。私たち住民にとって身近な江の島の海面下でも、海藻が消える海の磯焼けⅡ砂漠化が顕著で、漁業者は多大な被害を被っています。

このまま放置されれば、近い将来に漁業が成り立たなくなるといった事態にもなりかねません。江の島の漁場は復活できるのでしょうか。



日本の海岸では、温暖化による海水温の上昇や海流の変化などさまざまな要因によって海の磯焼けⅡ砂漠化が進行しています。近隣では三浦半島周辺や小田原・真鶴の各地の大型の藻場で磯焼けが起こっており、地元江の島の海も例外ではありません

磯焼けによって海藻を食餌とする貝類、海藻を住処とする魚類が棲息できなくなり、海から水産資源が消えていきます。江の島の海では海藻を食べるアイゴと芽吹いた海藻を根こそぎ食べつくすムラサキウニの大繁殖による食

子供も楽しめる多様なツールを活用し環境教育を!

近年、特に問題になっている海岸のプラごみ削減に向けた啓発活動が必要です。特に次代を担う子供たちに環境教育が大事であることを訴え①映像教材による教育②啓発用のユニチュープ動画広告によるPR③通信アプリを利用した啓発など、多様な施策によって啓発・教育を展開するとの回答を得ました。



害によって海藻が消失したと考えられます。さらに海水温の上昇により、これらの食害生物が冬でも活発に活動することで藻場が回復できず、慢性的な磯焼けを起しています。このような現実に対して、県の環境農政局にその施策を質しました。環境農政局の回答は、次の通り。

①漁業者やダイバーによるアイゴやウニの除去など藻場の保全活動に対し、技術的な助言や活動費の支援を

行っている。
②水産技術センターでは食害生物を食品として有効利用するため、アイゴの臭みを除いたり、痩せたムラサキウニをキャベツで育てるなど養殖技術の開発を行っている。

③藻場の早期回復のため、水産技術センターが相模湾で発見した通常より成熟の早いカジメを使った藻場の回復技術の開発に取り組んでいる。
④これらの取り組みにあたって早期に成果を出せるよう、磯焼け関係の研究を水産試験場城ヶ島本所に集中させて体制強化を図っている。
県は、このように相模湾の磯焼けⅡ砂漠化現象に対して具体的に取り組み、一日も早い復活を目指していきます。

